平成３０年度
和歌山県立那賀高等学校
第１回学校運営協議会

１　日　時　平成３０年４月２７日（金）１５：００～１６：３０
２　会　場　那賀高等学校　応接室
３　出席者　委員８名　事務局（学校職員）６名

３　内　容　（１）開　会
（２）校長あいさつ
委員への出席に対する御礼　学校運営協議会の役割・意義等
（３）平成３０年度学校運営協議会委員任命書交付

（４）那賀高校側出席職員６名自己紹介

（５）学校運営協議会委員８名自己紹介
校長が依頼した「那賀高校との縁」をエピソードとして入れながら自己紹介
（６）学校運営協議会 会長（議長）、副会長選出
会長、副会長が選出された。

（７）会長、副会長あいさつ

（８）協議
ア　平成３０年度和歌山県立那賀高等学校学校運営の方針について
学校運営の基本的な方針、学校教育目標等、校長が説明する。

質疑応答・意見等
質問１　学校運営の方針や学校教育目標は昨年度と変更点はあるか。
・重点目標には変更点は無い。
・生徒向けのわかりやすい教育目標を作成し、全校生徒に校長が説明した。
・カリキュラム・マネジメントについて表現した部分もある。
質問２　ボランティア活動の内容について具体例をあげてほしい。
・生徒会、運動部・文化部、ボランティア部がそれぞれ、自主的にまた、地域からの要請に積極的に協力して行っている。岩出市内６小学校が夏季休業中に実施している補充学習への本校生徒の学習支援ボランティア、同小学校への演劇部による小学校教材を題材とした演劇ボランティア、岩出市議会だよりの表紙デザイン作成も特色あるボランティア活動である。（地元委員からこれら那賀高校の取組が賞賛される。）
質問３　基本方針の文言が「～いるか。」といった問いかけや追い込むような表現になっているが、率直に目指すべき教師像を表現したらよいのではないか。そう表現しなかった校長の狙いは何か。
・教師自らが基本方針どおりできているか否か、自ら問いかけ、

そして内発的動機付けをすることもねらいである。

質問・意見４

・これからの社会が求める人物像を示し、そして生徒に「何を鍛えるか」を示している。それをどう生徒に伝えるか、どう具現化させていくかが課題である。

意見５

・こうした時代教師になりたい人材がいることはある意味驚きである。教師は受難の時代を迎えている。

意見６

・学校が「おもしろいところ」であってほしい。学校が「おもしろい」ところであれば学校生活が充実する。自分も自分の子どももそうであった。

意見７

・生徒のやる気をどう膨らませることが肝要

意見８

・教師の仕事はたいへん。育友会も教師をバックアップして、信念を貫く子を育てていきたい。
・那賀高校生徒は全般に挨拶ができていて、すばらしい。

意見９

・中期的目標の中で、「国際交流の部分」においては課題はそれほどない。那賀高校の国際交流の取組は順調である。

意見・提案１０

・学校方針の記載において「何を学ぶか」の部分では、教科指導とボランティア部門でわけてみては？
教科に特化しすぎているのでは？
・「何を鍛えるか」の部分を記載したのはよい。
この部分、さらに整理してみては？
・カテゴリーの枠を取っ払って、具現化する表記にしてみては？

＊学校長より提起された平成３０年度和歌山県立那賀高等学校 教育目標、運営方針、学校評価シート記載内容について平成３０年度那賀高校学校運営協議会委員全会一致で承認

イ 那賀高校 キャリア教育支援 講師バンク制度について
校長から当事業案について説明

那賀高校 学校運営協議会はこういう事業に当事者としてどう関わっていく組織なのか？学校評議員会のような組織とどう違うのか？どういう運営協議会にしていくのか次回学校運営協議会までの各委員の宿題としたい。（会長）

（９）閉会
校長謝辞

平成３０年度
和歌山県立那賀高等学校
第２回学校運営協議会

１　日　時　平成３０年５月２５日（金）１５：００～１６：３０
２　会　場　那賀高等学校　応接室
３　出席者　委員８名　学校教職員６名

３　内　容　（１）開　会
　　校長あいさつ
・５月６日第１ブロック校長会におけるきのくにコミュニティスクールについての協議内容報告
・今後の学校運営協議会予定・・・第３回実施中の取組等中間報告
　　　　　　　　　　　　　　第４回は今年度の成果と課題のまとめ

（２）会長からきのくにコミュニティスクールについて概要説明
（きのくにコミュニティスクールについての各委員の一層の共通理解）
・学校運営協議会と学校評議員会の違い
学校運営協議会で校長の学校運営方針等承認されなければ、校長は学校運営が進められない。学校評議員会で、評議員の承認が得られなくても校長は、学校運営を進められる。学校運営協議員は学校経営上の理事にあたる。英国の制度を参考に制度化されたもの。
・学校支援地域本部（事業主体）・・・学校のいろいろな取組を地域の方々が支援していこうとする事務局のようなもの。主として小学校で取り入れられている。そのため小学校は、学校支援地域本部で実施していたことを学校運営協議会に権限等を移行すればよいだけ（運営上やりやすい）。一方高校は地域というものを持ちにくいが、那賀はもともと地域とのつながりが強い学校・・・いろいろな取組を実施できる環境にあるのでは？→今後発展的に考えていけばよいのでは？
（３）協議題
ア　校長から平成２９年度「地域貢献活動」の実績について説明
・本校は「地域に貢献する那高生」を目標に挙げている。
那高生が学習していることを地域で活かす、生徒の成長につながっている場を地域に提供してもらっていると考える。
（自分をみつめなおす場が提供されている）

イ　校長から那賀高校 キャリア教育支援 講師バンク制度についての説明・・・*目的・事業概要は添付関連資料参照*

・教員以外の初対面の大人との対話
↓
生徒にとっては一つのハードルがある。この壁を突破することで、生徒は何か得るものがあればと期待する。
教員にできないものを与えてもらいたい。
・教師目標値８０名・・・事業主、社長、岩出市以外では？

意見１

・テーブルミーティングをしてはどうか？失敗談を話してもらってもよい。
・進行役がネックになる。話し合いを掘り下げていく技術がいる。それはたいへん高度なものである。議論が嫌いな社長も少なくない。
・和歌山で「就職」の意味を感じ取ってほしい。
自己実現するうえで、また、ものづくりの現場を子どもが見えていない。
地域の大人と話すことは、「働くとは？」を学ぶ上で意義あるかも。

意見２
・年間１回こういう授業をうけただけで、どれだけ意味があるのか？
２回は必要であると思う。
１回目・・・感じる、気付く。　２回目・・質問する。協調性とはなど考察する。
何か意味を持たせて、得るものがあると次年度につながるのでは。
・答えのないものに生徒は、何かに気付いて考えることはできるのか？

校長
・社長とかは特に考えていない。親や地域住民は考えている。

意見３
・雑談的なものから何か見つけてくれればよい

意見４
・雑談から何が生まれるかわからない（場の提供）。
地域の学校に岩出市の方々に携わってもらう。今年はおためし（出発点はここから）と考えるほうがよい。

意見５
・ロータリー(27 人～ 28 人)、ライオンズクラブ（35 人）などの方々に協力を仰ぐのはどうか。
・人生の師、大人と話をするチャンスを与える。
・テーマは特に決めていない。

意見６
・「１０年後をイメージしなさい。」そのため「５年後は何をしないといけないか。」その話ができる人がいったい何人いるのか？

意見７
・とにかく学校に来てもらう人を増やす。

意見８
・岩出市商工会、中小企業家同友会にも協力を仰ぎましょう。

意見９
具体的に進めるに当たって、実動部隊が必要（頼みにいく、動いてもらう人)、関わってもらう人も必要。
学校運営協議会は事業組織とする。そこに教員等が一人ずつ関わっては？
声をかける人がもう少し多い方がいいのでは？

意見１０
賛同していただける団体から人に出てもらって会議を持ってもらいましょ

う。たとえば、学校が依頼→賛同：商工会、ライオンズ、ロータリー、市役所という形で増やしていくことが大切

意見１１
・趣旨、目的、進め方等記載された文書を持っていって、賛同してもらう団体を得る。学校運営協議会からも、先ず岩出市民である委員が組織の中で校長と協力して動いていく。

・試行的に今年度は実施依頼時の文書は校長、会長連盟で出す。

（４）閉会
　　校長謝辞

４　資　料
（１）平成 29 年度　那賀高等学校ボランティア実績一覧

（２）「那賀高校 キャリア教育支援 講師バンク制度」説明資料

平成３０年７月１０日

関係各位

和歌山県立那賀高等学校
学校運営協議会長　　岸田　正幸
和歌山県立那賀高等学校
校長　　歌　　保晴

那高キャリア教育支援授業講師バンク登録のお願い

平素は、本校教育に深いご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本年度よりすべての県立学校で「きのくにコミュニティスクール」制度が始まり、本校では独自事業として標記授業を開始することとなりました。

この「キャリア教育支援授業」とは、地域で働く方々に講師をお願いして、授業を行っていただくものです。この授業は、本校教員が普段行っているものとは異なり、本校の５名程度の生徒と、「高校時代の勉強、学校行事、部活動等への参加取組が、将来の仕事とどう結びつくか？」、「高校生としての今がどうあるべきか、どうするべきか？」などをテーマにして語り合っていただく場となるよう考えています。

実施は、秋頃の平日に、２年生を対象に１コマ（５０分）を計画しています。１クラス４０名の生徒を５名程度にグループ分けし、また学校の日程で計画しますので、多数の講師先生が必要となってまいります。このため、標記講師バンクを設け、本趣旨にご協力いただける皆様にご登録いただき、日程の合う場合に授業をお願いするというしくみを考えております。

つきましては、別添資料「那高キャリア教育支援授業講師バンクとは？」や「きのくにコミュニティスクールの概要」をご参考にしていただき、講師登録についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

なお、ご協力いただける場合は、別紙「那高キャリア教育支援授業講師登録書」に必要事項をご記入の上、ご提出いただきますようお願い申し上げます。

この件についてのお問い合わせ

【担当】
和歌山県立那賀高等学校　教頭　味村　昌彦
TEL 0736(62)2117　FAX 0736(62)2119
<E-mail>　vice-principal@naga-h.wakayama-c.ed.jp

【 別 紙 】

那高キャリア教育支援授業講師登録書

お名前

ご住所

〒

お電話番号

所属所等名称

※ご提出いただきました情報については目的外に使用しません。また、個人情報の管理については万全を期します。

那高キャリア教育支援授業講師バンクとは？

Ｑ１　キャリア教育支援授業とはどのようなものですか？
　講師の方の力をお借りし、生徒が教員以外の大人との対話を通して、現在の自分の生活や人生に対する考え方を見つめ直すことで、これからのライフデザインを考える上で一つの視点が生まれるよう、計画したものです。

Ｑ２　誰にどんなことを教えるのですか？
　対象生徒は、那賀高校の２年生です。講師先生１人に対し、生徒５人程度を考えています。
　教えるというより、講師先生がそれまで培われた人生経験をもとに生徒と直接話し合っていただきたいのです。例えば、講師先生の高校時代を振り返っていただいて、その時の勉強に対する姿勢であるとか、後悔であるとか、また学校行事にどんなふうに参加したらよかったか、部活動の意義は何かといったようなことを自由に生徒たちと語り合ってもらいたいのです。また、高校時代や大学時代に学んだこと、経験したことが、今の自分や今の自分の仕事にどのように役立っているのかということも是非お話しいただきたいと思っています。さらに、高校生として今がどうあるべきか、どうするべきかなどに話が及べばたいへん有り難いと思っています。

Ｑ３　「キャリア教育支援授業」は、いつ、どのような形で実施されるのですか？
　平日の時間割の中の１コマを予定しています。例えば、５月２０日の２限目（９時４５分～１０時３５分）に、２年Ａ組の５人の生徒に授業を行うというイメージです。

Ｑ４　講師の条件にはどのようなことがありますか？
　特段の資格や免許といったものは必要ありません。日々働き、地域を支え、また家族を支えておられる皆様方の経験をお話いただければと考えています。

Ｑ５　登録しても仕事で行けないこともあると思いますが？
　一向に構いません。ご都合がつく時にご協力いただければ幸いです。その場合は、各事業所あてに学校から依頼文を出させていただきます。

Ｑ６　「講師バンク」となっていますが、講師はたくさん必要なのですか？
　はい。対象となる２年生は１クラス約４０名です。クラス別に日程を変えて実施する予定ですが、１クラスの実施に最低８名の講師先生が必要となります。１学年に８クラスあり、学校の授業日に設定しますが、その際講師先生のお仕事等の都合や諸事情でご参加いただけない場合もあります。このため、できるだけ多数の方々に登録をしていただければと考えています。

Ｑ７　何か準備するものはあるのですか？
　日程が定まり次第、登録いただいた方々を対象に事前説明会をさせていただく予定にしています。先に述べたように講師先生の歩んでこられた経験が教材となりますので、特にご用意いただくものはございません。ただし、ご希望により、プリントやパワーポイント等による資料をご用意いただいても結構です。印刷や機材等については、あらかじめご相談いただければ幸いです。

Ｑ８　この事業による効果にはどのようなことが期待できますか？
　学校の職員や家族以外の大人の方々と直接話をする機会をもつことは大変重要です。身近な存在としての人生の先輩の生き方に直接触れること、このことがもつ意義は非常に大きいと思っています。学校の先生に言われて「またか」と反発することや、親に言われて

素直に聞けないことであっても、普段接することのない人生の先輩であれば、お互いの心を通わす、意義ある対話ができるのではないかと期待しています。

Ｑ９　報酬はあるのでしょうか？
　誠に申し訳ございませんが、この授業での報酬・旅費等はございません。趣旨にご賛同いただいて、ご理解いただける方のご登録をお願いいたします。

Q10　これからどう進んでいきますか？
　次のような計画を立てています。

学校から各事業所への協力依頼・趣旨説明

⇩

登録期間：７月５日（木）～８月３１日（金）
様式「講師バンク登録」用紙を学校へ

⇩

９月中旬　登録者対象事前説明会

⇩

９月下旬　個々に「那高キャリア教育支援授業」への参加依頼

⇩

１０月中旬から　「那高キャリア教育支援授業」開始